

教育カリキュラム評価・改善に向けたアンケート調査

令和6年度 卒業生・修了生・雇用先 事業構想学群アセスメント

事業構想学群 学群教務 WG

◆調査対象者

本調査は、2021 年度（2022 年 3 月）に宮城大学卒業生（就職して 3 年目の方）およびその雇用先様（上司等）を対象とする。

◆調査目的

本調査は、弊大学の教育課程・プログラム等の教育改善を目的として、教育課程・プログラムに対する卒業生および雇用先による満足度や評価を実施する。

◆調査時期・方法

- ・調査依頼および回答：メールにて配布、調査は Forms より回答
- ・回答期間：2025 年 2 月 6 日（木）～ 2025 年 2 月 28 日（金）

※アンケートの回答にかかる時間は、約 7 分程度

◆調査項目

卒業生および雇用先ともに、回答者の業種（自由記述）、回答者の職位（自由記述）、各学類の DP（ディプロマポリシー）に対する能力（5 段階評価）、社会人基礎力 12 項目（経済産業省）（5 段階評価）、卒業時の学生の能力について（自由記述）、宮城大学の教育内容について（自由記述）、本アンケートについて（自由記述）とする。

具体的な調査項目を下記に記載する。

Q1 回答者の業種（3 学類共通）

Q2 回答者の職位（3 学類共通）

<Q3-Q7 各学類の DP に対する能力>

【事業プランニング学類】

Q3 事業計画や経営に関する理論と事例を理解し、社会の動きや人々のニーズを客観的に捉えることができる

Q4 統計学や数理計画など論理的な思考方法を身につけ、リスクも考慮した判断ができる

Q5 課題について議論し、調査・分析結果や提案を資料にまとめ発表することができる

Q6 自らの現状を観察・分析し、課題を発見し、その原因を探求し、解決することができる

Q7 他者との関係を意識しながらチームでプロジェクトに取り組むことができる

【地域創生学類】

Q3 地域の分析や計画に関する理論と事例を理解し、社会の動きや人々のニーズを客観的に捉えることができる

Q4 地域の歴史や世界の動きを踏まえ、定量的な思考も加えて、論理的な判断ができる

Q5 課題について議論し、調査・分析結果や提案を資料にまとめ発表することができる

Q6 自らの現状を観察・分析し、課題を発見し、その原因を探求し、解決することができる

Q7 他者との関係を意識しながらチームでプロジェクトに取り組むことができる

【価値創造デザイン学類】

- Q3 人間や生活環境に関する理論を理解し、情報メディアや空間設計の技術を修得している
Q4 実務に必要なプロセスを理解し、デザインに関わる分析力・発想力・設計力を発揮できる
Q5 課題について議論し、調査・分析結果や提案を資料にまとめ発表することができる
Q6 自らの現状を観察・分析し、課題を発見し、その原因を探究し、解決することができる
Q7 他者との関係を意識しながらチームでプロジェクトに取り組むことができる

<社会人基礎力 12 項目> (3 学類共通)

- Q8 主体性を持って物事に進んで取り組む力
Q9 他人に働きかけ巻き込む力
Q10 目標を設定し確実に行動する力
Q11 現状を分析し目的や課題を明らかにする力
Q12 課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力
Q13 新しい価値を生み出すことができる力
Q14 自分の意見をわかりやすく伝える力
Q15 相手の意見を丁寧に聴く力
Q16 意見の違いや立場の違いを理解する力
Q17 自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力
Q18 社会のルールや人との約束を守る力
Q19 ストレスの発症源に対応する力

<その他> (3 学類共通)

- Q20 大学卒業時、学生に修得してほしい能力には、どのようなものがありますか、具体的に教えてください (自由記述)
Q21 宮城大学の教育内容について、ご意見やご要望等ございましたら教えてください (自由記述)
Q22 本アンケートについて、ご意見やご要望等ございましたら教えてください (自由記述)

◆配布数、回答数、回収率について

- ・配布数 56
- ・回収数

事業プランニング学類 卒業生 8 雇用先 5

地域創生学類 卒業生 1 雇用先 2

価値創造デザイン学類 卒業生 0 雇用先 1

→卒業生 9/56 回答率 16.0% 雇用先 8/56 回答率 14.2%

◆回答結果 (卒業生 n=9 雇用先 n=8)

<卒業生> n=9

Q1	建設業(3), 食料品製造業(1), 企画(1), 金融(1), 情報通信サービス業(2), 不動産管理(1)
Q2	一般職員(7), 事務系(1), 営業(1)

<雇用先> n=8

Q1	建設業(2), 製造業(1), 広告業(1), 金融業(1), 情報サービス業(1), 総合ビル管理業(1), 総合事務(1)
Q2	次長(1), 課長(3), 主任(1), 人事担当(2), 一般職(1)

DP（ディプロマポリシー）に対する能力（5段階評価）

＜卒業生＞ n=9

Q 卒業時あなたはどの程度その能力を有していたと思いますか？ 図-1 に結果を示す。

＜雇用先＞ n=8

Q 本学卒業生は現時点においてどの程度その能力を発揮・有しているか回答をお願いいたします
図-2 に結果を示す。

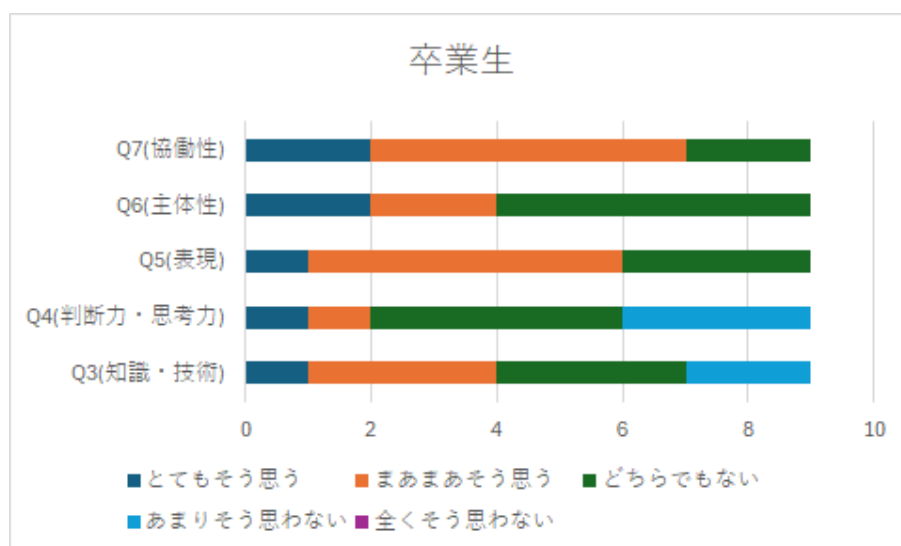


図-1 DP に対する卒業生による回答結果

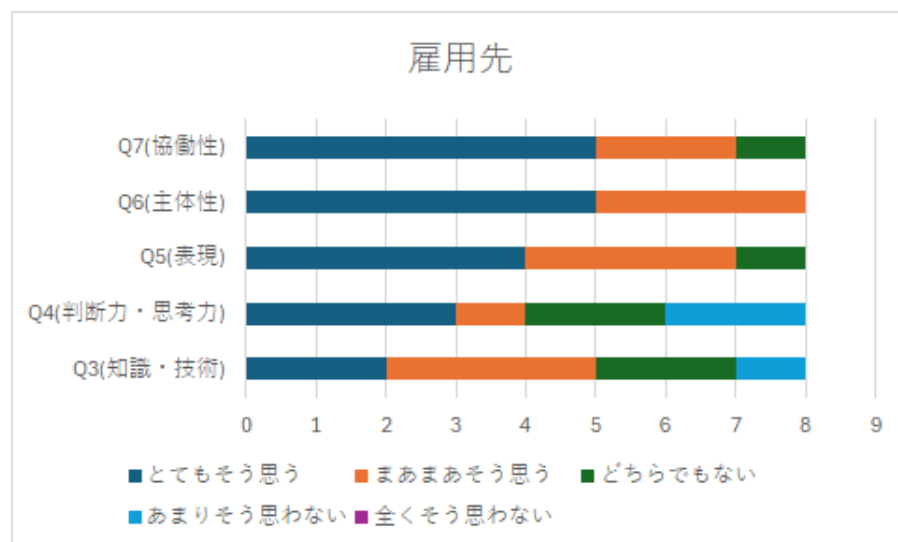


図-2 DP に対する雇用先による回答結果

社会人基礎力（12）

<卒業生>n=9

Q 就業する上で、下記の能力について大学での学修がどの程度役に立っていると思いますか？

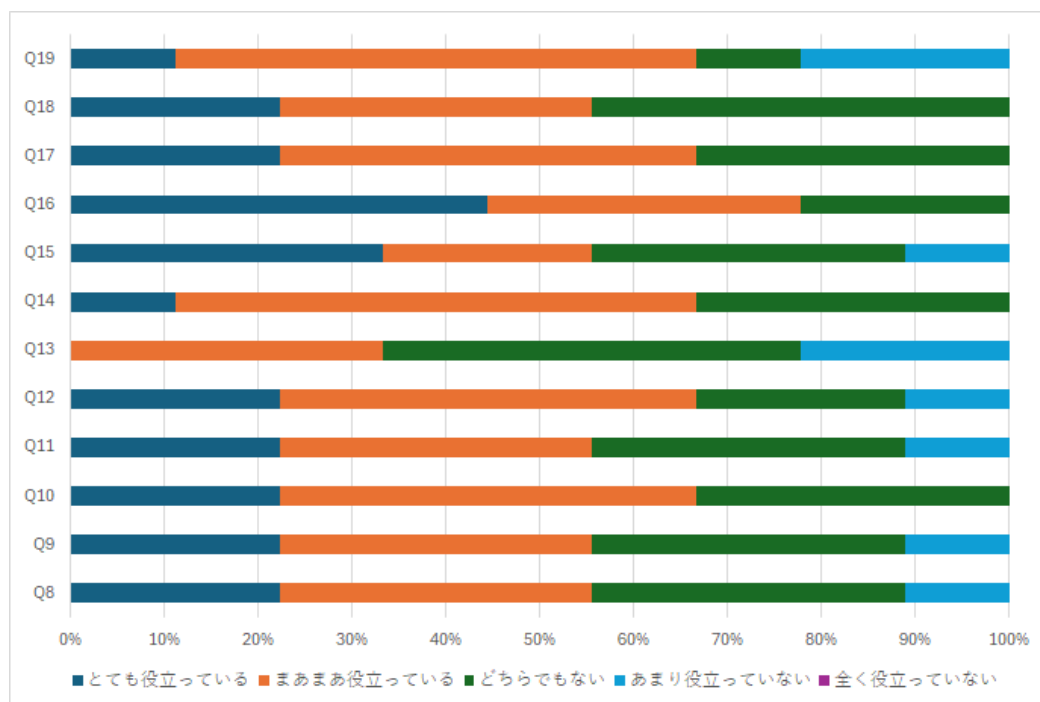


図-3 社会人基礎力 卒業生による回答結果

<雇用先>n=8

Q 本学卒業生は現時点においてどの程度その能力を発揮・有しているか回答をお願いいたします

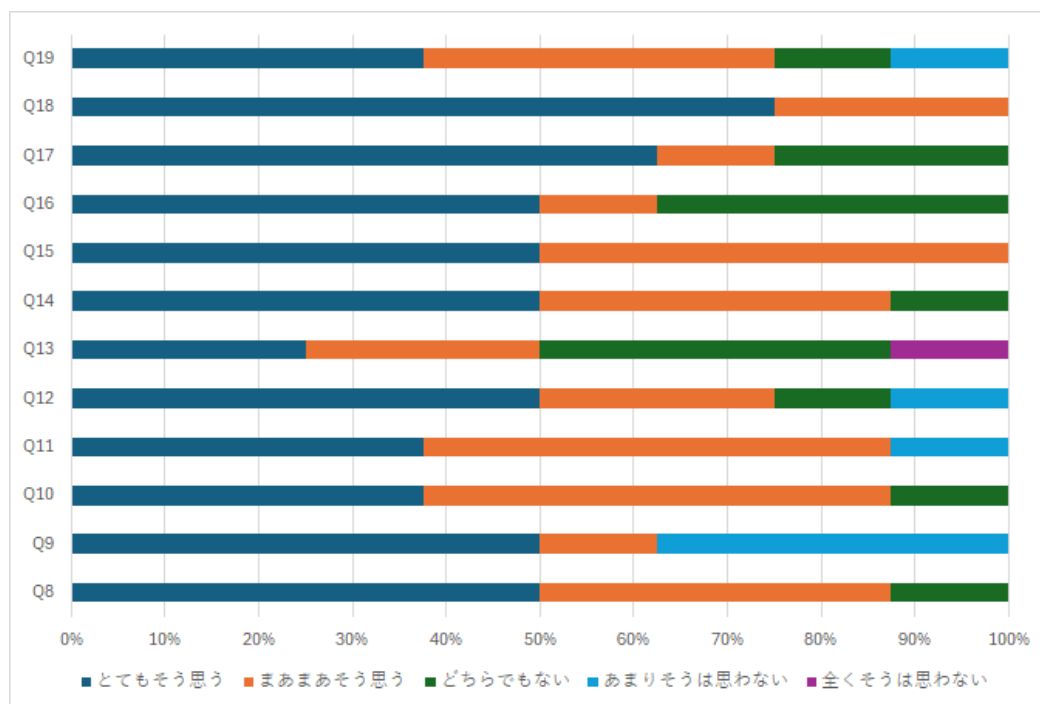


図-4 社会人基礎力 雇用先による回答結果

その他

Q20 大学卒業時、学生に修得してほしい能力には、どのようなものがありますか、具体的に教えてください（自由記述）

Q21 宮城大学の教育内容について、ご意見やご要望等ございましたら教えてください（自由記述）

Q22 本アンケートについて、ご意見やご要望等ございましたら教えてください（自由記述）

上記に関する回答結果を表-1 および表-2 に示す。

表-1 卒業生による回答結果

Q20	パソコンスキル,関係者との調整・交渉力,簿記等の資格取得についての授業をとっておけばよかったと後悔しました。1年生の時に行ったPythonを用いた授業について、有用性を理解できたのが社会人になってからだったので、データ分析ツール等は広く知っておくべきでした。
Q21	フィールドワーク等の調査活動を有意義に行えるように調査準備の設計を組み立てられるようにする教育の拡充,幅広く学べるので、様々な場面で大学で受講した講義と関連があると感じます。
Q22	回答なし

表-2 雇用先による回答結果

Q20	コミュニケーション能力（自分の意見を発するだけでなく、傾聴し、自分の意見を正しく伝えるなどの能力）／自分から学ぼうとする力が備わっていてくれるといいなと思います。色んな事に興味を持って、世界を広げ、色んな考えの人に触れて、他者の気持ちを考えられるようになってくれると、入社した後の成長スピードが違うと思います。／物事を表面的ではなく、より深く・多角的に考えられる意識を具えていただきたい。（思考力）／総合的にバランスよく学びの機会を得ていることが社会でも体现できている一方で、全学連系時代にあって、専門性への掘り下げが他学と比べて浅いように思う。社会人としてのレジリエンスが高いという点で非常に評価できる一方で長期的に見たときにこういった差が出てくるのかは今後注視していきたい。
Q21	在籍しております卒業生は、御校の理念である「豊かな人間性」「高度な専門性」「確かな実践力」な視座・行動力を持って活躍いただいております。大変優秀な学生を輩出されており、今後弊社で一緒に働ける方が増えていくことを願っております。
Q22	まあまあそう思う・とてもそう思うの間の「そう思う」があるといいなと思いました。

まとめ

DP（ディプロマポリシー）に対する能力について、図-1 および図-2 より全ての項目において卒業時よりも就職して3年目における雇用先上司による評価は高い傾向にあることがわかる。また、「知識・技術」は業種や職種はその多様性によって相対的に評価が低い傾向にあるが、その他の「判断力・思考力」「表現」「主体性」「協働性」については、卒業時よりも高い能力を発揮していることが確認された。さらに、卒業時学生自身が有していないと認識している「判断力・思考力」は、卒業後3年経過した後においても、職場ではあまり発揮することができていない、さらに「主体性」「協働性」は、本学の教育によって卒業生自身が有していると感じており、卒業後も職場から高い評価を得ていることがわかった。

社会人基礎力については、図-3 より12項目ほぼすべてにおいて、卒業生は本学の学びが就業する上で「役に立っている」「まあまあ役に立っている」と考えている。特に、「Q16 意見の違いや立場の違いを理解する力」は本学の学びの中で卒業生が最も役に立っていると認識している項目であり、「Q18 社会のルールや人との約束を守る力」については、就業先の職場内で最も評価の高い項目であることが確認された。特に「Q13 新しい価値を生み出すことができる力」は、図-4 に示すとおり卒業生自身も本学の教育効果としては最も低い項目であり、就業している職場内の評価としても最も低い項目であることから、社会人基礎力の中で、本学事業構想学群の教育内容において最も力を入れて教授すべき項目であることが確認された。

加えて、表-1 および表-2 から、本学の卒業生に対して「豊かな人間性」「高度な専門性」「確かな実践力」な視座・行動力を持って活躍しており、優秀な学生を輩出しているとのご意見を頂いており、これらの点は今後のカリキュラム、教育内容としてもより充実したものへと発展させていくものであると思われる。その一方で、就職先企業から「コミュニケーション能力」や「自分から学ぼうとする力」を身につけてほしいとの要望が得られた。これらの能力は、本学における教育内容としても重点を置いているものであり、今後、教育内容を検討する上で十分に考慮する必要性が確認された。